

平成 29 年度 学校法人 三幸学園 東京スイーツ&カフェ専門学校  
自己評価及び学校関係者評価委員会

自己評価報告責任者：高田幸一

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 五関嗣久

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、製菓・調理分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、製菓・調理分野として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材を育成する(全ては、お客様の笑顔とありがとうのために)人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 自己評価

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

①課題

・入学前に保護者への教育方針等の説明会を実施しているが、学校行事等において授業参観や見学などの機会はまだまだ多いとは言えない。今後も業界が求める人材を理解し、教職員において浸透を継続していくべきである。

②今後の改善方策

・全教職員に理想像や行動方針を可視化し、年間通して一定のレベルを保てるように取り組んではいるが、全体での意識統一や理解の均等化については継続的に注力が必要な点である。

③特記事項

・本年度も引き続き、株式会社プロントコーポレーション様との商品開発や、他企業との産官学連携活動にも力を入れ、業界との接点や習熟スキルの向上に努めていきたい。

④学校関係者評価委員コメント

・最終的な教育の目的や目標は、全教職員の意識が統一されていることが好ましいが、特に技術系の授業については先生によってある程度の個性や経験を出しながら授業をすることも魅力的な授業に繋がる。

・昨年の生徒によるレシピ考案の際も期待値以上だったので、今年度も期待している。

## (2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4	③	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

### ① 課題

・教育機関として一般社会のコンプライアンスに対する理解とリスクマネジメントは、引き続き高い意識をもって取り組むことが必要である。

・様々な立場の教職員が教務に関わっている中で、経験値や年齢、社歴を超えて業務の理解度を改善し、一体化できるような取り組みも引き続き必要である。

### ② 今後の改善方策

・昨年より引き続き、姉妹校の業務・授業見学や各種教職員研修の場を可能な限り多く設定していきたい。

・保護者への情報公開は継続して行い、生徒の状況報告を通じてご家庭との連携をより深めた教育環境を整える。

### ③ 特記事項

・期末、始め毎の全教職員を対象とした会議、各専攻の教員ごとの教科会、毎週の担任会議、上長や先輩教職員と後輩教職員のOJTトレーニング、定期の運営会議、任意の勉強会などを実施しており、意識の統一や情報の共有、各メンバーのスキルアップなどに注力している。

### ④ 学校関係者評価委員コメント

・実技⇔座学の連動が図れることが大切である。また、理論など座学で学んだ事はなるべく近い日程で実技の授業でも連動できるとより教育効果があがると思われる。

・例えば先に実技でやってみて、その後座学で理論を説明する。あるいは理論も実技も交互に織り交ぜながら授業を展開するなどの方法もあるかも。施設稼働の問題もあるが、可能性を図りながら検討していきたい。

### (3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	(4) 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 (3) 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 (3) 2 1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 (3) 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 (3) 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 (3) 2 1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 (3) 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 (3) 2 1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 (3) 2 1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

#### ① 課題

・学内だけでなく、関係企業様をはじめ外部の方から評価をいただく機会や、生徒の成功体験を積める機会を精査して増やしていく必要がある。

#### ② 今後の改善方策

- ・実習授業の授業内容の一部を会部企業様や、外部の方に評価してもらう仕組みを推進する。
- ・関係企業様をお招きしての学内研修会の実施を増やすなど、教職員のさらなるスキルアップを目指す。
- ・階層別の研修等も増やし、必要に応じた習得すべきスキルの醸成を図る。

#### ③ 特記事項

・例年の取り組みではあるが、学内店舗実習における企業との連携、授業内評価に関しては一定の教育効果、及び実績をあげることができている。

#### ④ 学校関係者評価委員コメント

・例えばカリキュラム上のインターンシップ以外にも、短期で希望者には放課後の見学実習などを実施してみてもどうか？

・受け入れる企業側からすると、短期でもある程度いろいろな現場を実際に見ることで成長に繋がるし、お互いにそこから就業へつながる可能性も出てくると思われる。

#### (4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	4	③	2
資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	②	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	②	1

##### ① 課題

- ・卒業後の繋がりや支援・管理体制には今後も改善の余地があり、引き続きコミュニティーの確立が必要である。
- ・継続的な退学率低減、そこに繋がる普段の学校生活の長期欠席者などのケアや効果的な取り組みが必要。

##### ② 今後の改善方策

- ・縦横のクラス間のつながりをさらに強化し、学校全体で常に入学時の目標を薄めないような環境づくりを意識して指導にあたる。
- ・保護者の方との接点を増やし、学校教育への協力体制を確立するとともに、遅刻、欠席時の連絡以外にも、期末ごとの発送物などでも学校の様子をお伝えできるような仕組みを作る。
- ・常にアンテナを張り、長期欠席や退学を検討する前にアプローチができるように、早期の問題解決に注力する。
- ・クラス内でなじめない場合には、年度途中でのクラス替えも検討するなど柔軟な姿勢で対応することも想定。

##### ③ 特記事項

- ・学校独自の行事としてレクリエーション大会や留学生交流会などを実施し、クラス間や留学生間で団結できる機会を作り実施している。

##### ④ 学校関係者評価委員コメント

- ・生徒側からすると、やはり技術系の先生の方を信頼する傾向にある。担任が技術系以外の教員の場合、個人面談等も担任が全て抱えるのではなく、技術教員と連携して個別面談や就業相談などの機会を増やすことで、退学者などの防止にもつながるのではないかと。
- ・個人面談での生徒状況を把握することは他の専門学校でも実施しているが、目の前の問題や状況だけでなく、場合によっては子供のころの経験や、家庭環境などが問題の根幹になっているケースもある。その辺りも注意しながら面談を進めることも重要と思われる。

## (5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 (3) 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	4 (3) 2 1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4 (3) 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 (3) 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	4 (3) 2 1
保護者と適切に連携しているか	4 (3) 2 1
卒業生への支援体制はあるか	4 (3) 2 1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 (3) 2 1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 (3) 2 1

### ① 課題

・各クラスの担任は中心となりながらも、実技中心のカリキュラムで担任以外の教員も含め教職員一丸となった指導の継続が必要である。

・前項でも触れたとおり、卒業生に対する支援体制は更に強化していく必要がある。

### ② 今後の改善方策

・定期的な個人面談の他にも、都度生徒の状況を鑑みながら個別の対応を適宜機会を作る。

・高等学校への業界、職業理解の促進のため、出張講座などの提案をし実施の機会を増やす。

### ③ 特記事項

・AO入試での早期入学者には、高校の先生のご意見もお伺いしながら入学までに適切、かつ継続的な学習の場を提供している。

・昨年は一昨年に悪天候のため開催できなかった卒業生対象の同窓会を実施し、78名の卒業生が参加。今年度以降も継続的に実施予定。

### ④ 学校関係者評価委員コメント

・卒業生への定期的な支援体制は今後も必要。

・卒業生が学校へ顔を出す機会が多いのは好ましいが、より具体的、計画的な卒後支援の体制(第2新卒向け求人、中堅転職者向け求人など)をさらに整えることで、卒業生への手厚いフォローへと繋がる。

## (6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	②	1

### ① 課題

- ・都度修繕はしており授業を行う為に不備はないが校舎の老朽化により、一部空調、換気扇、扉、実習室の水道などの故障がある。
- ・インターンシップやアルバイトから継続して正社員として雇用していただけるようなルートも拡大したい。
- ・防災に関してはあらゆる災害を想定したうえでの危機管理が必要であり、今年度より新たに防災時の携帯用マニュアルを作成し、全生徒に配布している。

### ② 今後の改善方策

- ・現状も引き続き校舎の移築を視野に検討を進めている。
- ・老朽化所については状況を確認し、予算を確保しつつ改築及び修繕を行うが、緊急の場合にはその限りではなく早急に対応する。
- ・インターンシップやアルバイトも含めた関係構築も促進し、就職状況の強化にもつなげる。また、本年よりいただいた求人には必ずアルバイトの可否も確認し、新入生や在校生に紹介できるフローも再構築している。

### ③ 特記事項

- ・備品については過不足の無いように、年度ごとだけでなく常にニーズに合わせたものを備えるようにしている。

### ④ 学校関係者評価委員コメント

- ・在学中を思い起こすと生徒同士でも工夫や協力をしながら学校生活をしていた。それがアットホームな学校の雰囲気よさにもつながっていたような気がする。
- ・生徒が自ら協力したり、工夫しながらその環境をより良くしようとする姿勢は好ましいと思うが、反面、授業に支障があるようなら修繕などは適切に実施していけるようにするべきである。

## (7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	4	③	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

### ① 課題

- ・留学生の募集方法や入国審査、ビザに関して、担当教員のみでなく、全教職員の基礎知識向上が必要である。
- ・AO入学に対しての入学希望者、または高校進路担当者の理解を深める必要がある。

### ② 今後の改善方策

- ・留学生に対するツールや説明会、または教員勉強会を実施する。また、入学後のフローや学生状況の把握に努める。
- ・英語、中国語なども含めた案内ツールや学費の案内、学校生活上のルールなども準備し、日本語能力に不安のある留学生の不安解消にも努める。

### ③ 特記事項

- ・入学式前の事前オリエンテーション、保護者説明会を実施し、一定の効果と実績がある。
- AO入試に関しては、高校生と学校だけで合否判定をせず、事前に保護者及び高校の先生からも承認を得ているかを本人に確認している。また入学前学習を適切に施す事がAO入試制度に課せられた必須事項である為、出願後の入学前事前学習としてレシピを選定し、5回程来校を促し実施している。
- ・学納金に関しては、他校の学納金水準も参考に、教育研究費、実習材料費、人件費、施設設備費などを勘案して適切に決定している。

### ④ 学校関係者評価委員コメント

- ・留学生は国によっては潜在的な文化の違いがあることもあるため(手洗いや食品管理などの衛生面の観点からも)就業となるとその点でネックになる場合もある。
- ・ビザの問題もあるが、言葉、個人の性格、衛生に関わる価値観などクリアすべき問題はいくつかある。本人、学校、企業それぞれに事前に条件等の確認をしっかり行うことも大切。

## (8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

### ① 課題

【中長期計画】なし 【予算・収支計画】なし 【会計監査】なし 【財務情報の公開】なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

・昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

#### 【財務情報の公開】なし

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員コメント

特になし

## (9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	③	2	1

### ① 課題

・自己評価の実施を行い、外部評価を交えて検証もしているが、すべてを即実行できていない。

・法令順守に対しての意義浸透と整備が必要

### ② 今後の課題方策

・自己評価を実施したうえで学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会などを通し、外部評価も取り入れたうえでより精度の高い状態とし、改善策も都度明確にしたうえで期日を決めて実行していく。

・学園内部別部門委員による教務監査を実施し、法令に沿った書類管理や運営状況の指導を受けている。

### ③ 特記事項

・上記教務監査については、今年度も次月7月に実施予定となっている。

### ④ 学校関係者評価委員コメント

特になし。今後も学校運営上必須の法令を遵守しながら学校運営を適切に行ってもらいたい。



## (10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

### ① 課題

- ・地域貢献の実施を今現在も行えているが、さらなる強化を図りたい。
- ・来校型の活動を強化し、外部への貢献と同時に地域に理解を深めてもらう活動が必要。

### ② 今後の課題方策

- ・姉妹校との連携を促進し、参加家族のニーズを満たす活動を実施する。
- ・授業内にて準備対応ができるようなシラバスを運用する。
- ・地域との関与、つながりをよりしっかりと築く。

### ③ 特記事項

- ・季節の催事や地域との連携を実施。
- ・地域のニーズに合わせた貢献活動を実施。(クリスマスケーキ販売や、製菓講習会など)

### ④ 学校関係者評価委員コメント

- ・学校の教員による企業向け講座・講話などを実施しても面白いのではないかと？

## (11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4 3 ② 1
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4 ③ 2 1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 3 ② 1
学内で適切な体制が整備されているか	4 ③ 2 1

### ① 課題

- ・留学生の卒業後の進路、求人開拓がまだ少ない。
- ・留学生に対する受け入れ態勢の柔軟化、さらなる環境整備が必要。

### ② 今後の改善方策

- ・企業様への留学生受験が可能かどうかのヒアリングの徹底。
- ・留学生の対応に関する居職員の勉強会の実施。
- ・留学生奨学金、学生支援の斡旋を強化する。

### ③ 特記事項

- ・姉妹校の日本語学校との連携強化。
- ・留学生の就職斡旋企業との連携を強化する。

### ④ 学校関係者評価委員コメント

・2年生になると学内店舗実習やプロントプレゼン等で忙しくなる為、産官学連携活動は1年生向けだと感じた。  
2年生でも1年生に教えるだけでなく、もっと産官学に取り組めるような施策があればさらに良くなると思った。

### 3 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ① 退学率の低減の促進(1年数値目標8.0 %/2年数値目標 5.0 %)  
合計6.5%以内に退学率をとどめる目標で取り組む。  
担任と教科担当で早期の対策を考えて、退学の“きっかけを見逃さず”と一緒に実行していく。
- ② 「目指す人物育成像」を目指した、教育の徹底  
技能と心の調和が教育理念であるが、  
【技能】プロを目指す基本(技術・知識・意識)が身についた人物像  
【心】(自ら)明るく挨拶・返事・気配り・清掃ができる人物像  
と定めて、人材育成に努めていく。
- ③ 企業並びに地域連携を促進する  
三方(生徒・教員・相手先)が活動目的をしっかりと理解した連携を行い、良い教育効果を残す。
- ④ 卒業生との繋がり強化していく  
学校からの情報通信を送付し、同窓会を夏または秋休みに開催する。
- ⑤ 募集定員を満たすよう生徒募集に努める  
入学定員となる160名が入学してくれる学校づくりとPR活動をより早く、効果的に実施する。  
同分野の他校と違うオリジナルの学校ブランドを確立する。

・学校運営は内向きになることがあるので、いいサービスを目指していても、時には外部の方からご意見をいただくことがとても重要と考えている。

最後に各委員の方より・・・

- ・やはり専門学校の間基礎基本の技術をしっかりと身につけることで、就職後の現場での応用にも繋がる。繰り返し練習をすることも含め、その大切さを生徒に伝え、技術向上に努めることが大切。
- ・企業側も色々な人材を受け入れ、就業後の指導・育成も含め色々なカードを持つことが必要と考えている。
- ・SNSやlineなど、生徒のコミュニケーションの主たるツールが変化する中で、対面で生徒の声をしっかりと聴ける学校であってほしい。
- ・委員をしている生徒や、各種活動をしている生徒以外の生徒にも学校としてフォロー体制が万全か？普段目立たない(表にあまりたたない)生徒に対しての目配りやケアも大切だと思う。
- ・一番大切なのは「素直な心」や「挨拶・返事」。やはりここに立ち返ると感じている。これからも、それをしっかりと伝えられる学校であってほしい。